

いふとん



仁淀川町
広報

3

2008年
月号 No.32



厳しい寒さが続いた今冬、長坂山の赤滝が凍結しました。大自然が作り出した氷の芸術です（4ページに関連記事）

絶

厳

景

冬

主な 内容

- 2・3.....秋葉まつり
- 8.....保育園児が防火パレード
- 9.....きちんと知ろう地デジvol.3
- 10・11.....町人事行政の運営等の状況
- 13.....後期高齢者医療制度の保険料率が決定

秋葉まつり



山里を彩る時代絵巻

二月十一日、土佐の三大まつりの一つで、二百年以上の歴史を誇る秋葉まつりが行われました。

朝九時、凜とした空気の中、霧之窪、本村、沢渡集落から練りの行列が、まつりのスタートとなる岩屋神社に集合。「トントンチキチ、トンチキチ」と秋葉まつり独特の笛や太鼓の囃子が山々に響きわたり、まつりのムードを一気に盛り上げます。ここから、総勢二百人の「練り」が市川家、大石家前、法泉寺、中越家を経ながら秋葉神社へ向かいました。

県内外から詰めかけた大勢の観客は「鳥毛ひねり」に歓声を上げたり、「キョウウサー、キョウウサー」の勇ましい掛け声で豪快に揺さぶられるみこしに圧倒されたりと、まつりを十分に堪能しました。

また本紙先月号で紹介したとおり、今年は「油売り」の衣装が善意で寄せられた古布で百年ぶりに新調されたほか、踊り子のかぶとも新しく購入され、この日お披露目となりました。

新調の衣装で観客を魅了。油売り



新しい衣装を身にまとい、より一層軽快でひょうきんな動きを見せてくれた油売り。行く先々で大勢の観客に囲まれていました。(写真左：中越家前で握手を求められる油売り)

また市川家と秋葉神社だけで奉納される神楽は、油売り3人と「太鼓かき」2人の役割です。このときはどてらの上に袴(かみしも)を着用し、速いテンポのお囃子に合わせて舞います。(写真右)

まつりの花形・鳥毛ひねり



長さ6.5メートルの毛やり（鳥毛）を投げ合う「鳥毛ひねり」。火事装束の若者が10数メートルの距離で鳥毛を見事に投げ、受け止める瞬間、観客からは拍手と歓声が上がります。

また鳥毛を受ける側の独特の舞いは、タカやワシの飛ぶ姿になぞらえられており、この舞いの美しさにも視線が集まっていました。（写真上）



大役を終えた若者の安堵の表情が印象的でした。

新品のかぶとで舞う踊り子

新調されたピカピカのかぶとを身に着け登場した踊り子が、太刀踊りを奉納しました。
観客から「かわいい！」との声が上がっていましたが、踊り子たちは真剣そのもの。文字通り真剣を使つての舞いです。
今年初めて挑戦した小学生五人も、先輩方からの厳しい指導と努力のかいあって、立派につとめあげました。



厳寒ならではの絶景

赤滝・白滝（長坂山）

長坂山中腹標高七百㊦を超える所にある「赤滝」は、厳寒期には高さ約三十㊦、幅約二十㊦にわたって凍り、雄大な氷の世界を楽しむことができます。

氷の芸術に感動！

二月十七日、「山村自然楽校しもの郷」のイベントとして、町外からの参加者としもの郷関係者たち十九人が、地域の方々が整備している登山道を登り赤滝を目指しました。

時折吹く強風と雪が舞う中、また登山道の途中からは積雪もあるなど大変厳しい条件でしたが、しもの郷を出発して約二時間、全員が無事赤滝に到着しました。

氷の芸術とも思えるような幻想的な滝に参加者の目はずき付けで「素晴らしい！」

「感動する！」と歓声が上がっていました。

地元の人でも滝を見に行く人はほとんどいない秘境。案内をしてくださった方々の話によると「これだけ見事に凍り、美しい滝が見えるのは四、五年に一回ぐらいではないか」と話していました。

一行は赤滝を十分堪能してから近くの白滝に移動し、ここでもまた違った氷の世界を楽しんだ後、帰路につきました。



白滝は青みがかった白色に凍っていました



登山道には積雪が

美しい花が咲き続けますように…

ひょうたん桜診断治療報告会



1月27日、ひょうたん桜公園で「ひょうたん桜診断治療報告会」が行われました。

昨年8月から、日本緑化センターの樹木保全事業として、日本樹木医会高知県支部が樹勢状態などの調査を行っていました。その結果、枝の折れた部分から腐食が進んでいる、枝全体にコケ類が生え幹の新陳代謝を阻害しているなどの状況がわかり、その後、昨年12月まで、枝のコケ類の除去、根元への施肥、支柱の取り替えなど治療を行ってきました。

報告会には、高知県緑サポーター会のメンバーや地元住民など約70人が参加し、濱田吉成日本樹木医会高知県支部長から診断治療の説明を受けました。

「ひょうたん桜」は例年、3月下旬から4月上旬が見

ごろです。今回の治療の成果が現れ、今年もきれいな花を咲かせてくれることでしょう。

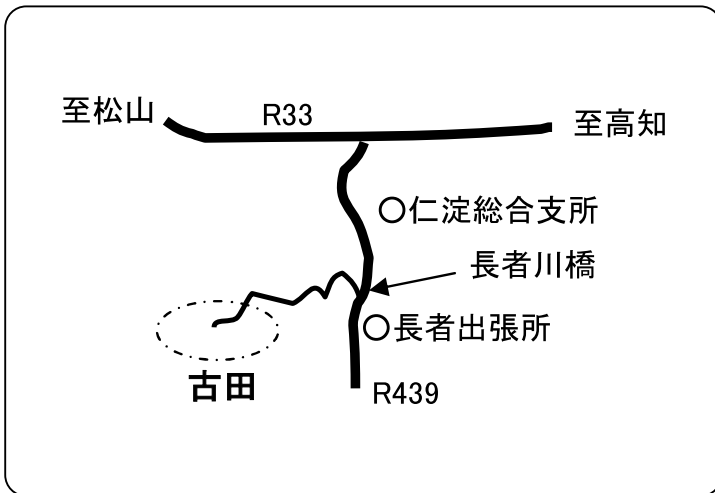


七十人が参加した報告会



古田は仁淀総合支所から車で約15分。長者川橋付近から約2 林道を上った所にあり、1月31日現在20世帯50人の集落です。

古くから水田が開け、古い田があることから地名になったようです。現在でも数軒の家が自家用の米を作っています。



こんな言い伝えも：
蔵ヶ谷
集落の西方に蔵ヶ谷という小さな谷があります。ここは元和
元（一六一五）年の大坂夏の陣に敗れて逃れてきた大野修理亮
治長が、財宝を隠した所と伝えられています。植林の中で、山
幅が狭く、分かりにくい場所だということです。
七人塚
その昔、八人の杣人（木こり）が、大木を切り出してしまし
た。秋日和のある日のこと、この山にとっても香り高いキノコを
発見し、一同は喜び昼食においしく食べました。やがて皆は腹
痛を起し苦しみを始め、痛みの軽い一人は助けを求め、戸立へ
と向かいましたが、途中で亡くなってしまいました。
残る七人も山で息が絶え、現地で葬られ人々は悲しみの中で
供養をしました。後世、ここを七人塚と呼ぶようになったとの
ことです。

美しい棚田の風景が残る集落

集落見聞録

（第26回）

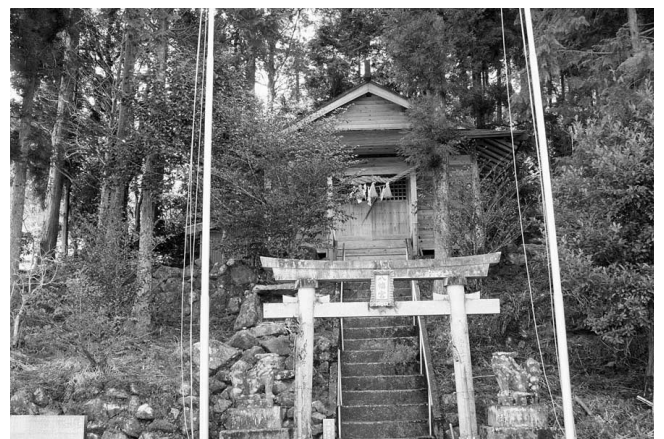
ふる 古 た 田



大野佐勝さん

大野佐勝さんは古田について「なんにもないが、古田は住みやすい所。山になってしまったが、昔から戸数そのもの

のはあまり変わっていないんじゃないだろうか。講という集まりがあって、毎月二十日に集会所に全戸から人が集まって、会をしゅう。これは昭和二十二年からずっと続いてきゅう。役場や農協からいうてきた用事も、この日に全部終わるよ。昔は太鼓踊りをしたり、神祭をにぎやかにやったりしよったが、今は何にもないねえ」と話していました。



集落の守り神・八幡様

明治27年の日清戦争に際し、高岡郡中土佐町の久礼八幡宮を勧請（祭神の分霊を神社に招いて祭ること）しました。平成9年に社殿を再建、銅板ぶきとなりました。神祭は旧暦の1月15日と8月15日。神社の前は広場になっており、8月の神祭には豊年踊りが踊られていたということです。